

変わりゆく日本の大学入試

ライター 町田啓、清水潔之 エディター 青木麟平

「ワインの歴史を述べ、さらに発酵の化学式を答えなさい」
センター試験が廃止される3年後、このような文理異なる分野を横断した問題が新たな入試問題として英語で出題されるようになるかもしれない。

センター試験は1979年から実施されている一定の学力基準を測ることを目的としている試験で英国数社理の全科目がマーク形式で行われてきた。しかし現在、文部科学省でセンター試験の廃止とその後に行う試験について議論が進められている。従来のセンター試験では受験者に一定の基礎学力があるかどうかを査定する役割を担っており、学校も知識を定着させることを優先とした教育を行ってきた。しかしグローバル化が進む現在では、自分で物事を判断する思考力や議論する能力、英語のスピーキング能力などを高めることが求められる。そのため、従来のセンター試験を廃止し、新しく思考力などを試す試験を実施する動きがあるのだ。

これに対し、新しく行われる試験に疑問や不安を感じる人々がいる。とある私立中高一貫校の教員はこう語る。新試験の導入によって入試のあり方が抜本的に変わると思われるが、具体的な変更箇所が完全に決まっていない上、新試験の対策と新しいカリキュラムを考えるための時間が必要になる。残り3年という短い期間の中で早期の決定と伝達がなされることを望んでいる。

「センター試験は、受験者の学力を試す試験として十分な役割を果たしている。」そう述べるのはトフルゼミナール渋谷校の学習アドバイザーを務めている足立尚彦氏だ。確かに、センター試験は研究され尽くしていて、より深い理解というよりも出題傾向や知識の定着具合を測っていることは事実だが、それでもあの試験で失敗する人だっている。個人の学習が十分でない者は失敗する。その選別が十分に機能している点において、センター試験はこれまでも受験者の学力を試す試験として十分な役割を果たしてきた。国公立大学受験者であれ私立大学受験者であれ、センター試験は自分が努力した成果を反映してきた。

「日本は地下資源が無い国だから、良い人材を作るしかない。」
今後も日本が世界と渡り合うことに貢献できる人材を見出し育成するためにも、今後実施される新たな試験や教育方針がよりよい形に収束することを期待した

いと足立氏は熱心に語っていた。

数多くの受験者がいるセンター試験。その試験が、これから求められる生徒の能力に応じて大きく変化する。今後の文部科学省の対応に注目が集まる。